

「おかえりなさい」

— いわきで輝く、人と仕事 —

「行ってらっしゃい」

「ただいま」

「おかえりなさい」

これまで、数え切れないほど、この言葉を交わしてきたでしょう。

しかし、この言葉たちは決して、家族や友人だけの間で交わされるものではありません。

いわきで生まれ、育ち、学び、たくさんの思い出を胸に、ふるさとから巣立った日。

そのふるさとに帰ってきた時に胸を張って「おかえりなさい」と言える「まち」になりたい。

そのために、いつでも安心して、希望を持って帰ってきていただけるよう、産学官が連携し、さまざまな取り組みを行っています。

本特集では、いわき市で働くことや創業するという道を選んだ方の意志、それを市の内外から見守ってきた方々の想い、後押しする支援制度などを紹介します。



社会人3年目となって、さまざまな人との出会いや仕事での経験を通じて芽生え始めた、ふるさと「いわき」への思い、そして自身の夢について語ってくれました。

ふるさとに恩返しをするZ世代の

プライド

風力発電メンテナンスというインフラ、そして未来を支える仕事に誇りを持っています。

僕が、そんな風力と出会ったのは、福島高専4年生時のインターンシップでした。そこで初めて、東日本大震災からの復興と産業再生に向けた国家プロジェクトがこのいわきでも展開されている事を知りました。高専で学んだことを生かし、復興にも貢献できる、とてもやりがいのある仕事だと感じ、(株)北拓に入社しました。

再生可能エネルギー先駆けの地として、いわきを含む福島県内には、全国有数となる風力発電機が今後導入されていきます。

僕の夢は、福島のエリアリーダーとなって、福島の風車を安全・安心に稼働させ、地域産業を活性化させながらクリーンな電力で地域を明るく照らしていく、そんなエンジニアになれたらと考えています。そのためにも全国を渡り歩き、経験と技術を積み、いわきに戻って恩返しができるよう、将来のための「今」を精一杯頑張っていきます。

社会人となって全国各地を見てきたからこそ、改めて「いわき」の魅力に気付かされます。都心からも近く、気候が温暖で住みやすい。そして、何よりも、成長産業に関わる魅力溢れる企業が多く存在します。僕らZ世代がいわきを盛り上げ、ふるさとに恩返しができるよう、プライドを持って挑戦していきます。

(株)北拓 芳賀 健太郎さん

2022年3月、福島高専の電気電子システム工学科を卒業後、同年4月に国内有数の風力発電メンテナンスサービス企業である(株)北拓(本社：北海道旭川市)に就職。風力発電メンテナンスの技術者として、再生可能エネルギーの供給を支えています。



Hokutaku

2021年9月、東北エリアにおける風力メンテナンス総合拠点として四倉中核工業団地に福島支店をを設立。

先輩メッセージ



(株)北拓 営業部次長

菅原 俊貴さん

私は、福島エリアの統括責任者として、四倉中核工業団地にある弊社福島支店に常駐しています。いわきに対する熱い想いを持って、日々研鑽を積んでいる芳賀くんの姿はとても頼もしく、ここまで地元のためにと頑張れる若者は稀有な存在ではないでしょうか。地元の将来を考え、自分がどう関わるか、まるで地元で育った人の特権のように市外出身の私からは羨ましくも思えます。

弊社は、地元の復興への強い想いに触れ、支店進出や地元企業との連携により、その気持ちに応えていければと考えています。福島支店を構えた本質的な意義を理解し、現場経験に加え、技術開発や地元企業との対話など、新たな経験を積むことも重要となります。彼にはそうした経験を積んでもらい、いつか自分の後継者として、このいわきを背負って立つ存在になりたいと願っています。

私がソーシャルネットワークキングサービス（SNS）を活用して、いわきの魅力を発信する活動を始めたきっかけは、福島高専ビジネスコミュニケーション学専攻科一年生の卒業研究でした。

SNSを通して、ある選挙啓発運動を社会実験する機会を頂き、ターゲットが求める情報は何か、より伝わる発信とは何か、試行錯誤を繰り返しました。結果として、投票率に貢献しただけでなく、フォロワーも確実に増え始め、SNSが効果的な媒体であると再認識することができ、これを何かビジネスに変えられないかと考えるようになりました。

まだまだ起業したてですが、徐々に仕事の依頼も増え始めており、「週末にここに行きましたよ」とか「この情報すごいためになりました」という声を頂くことも多くなり、とてもやりがいを感じています。

これまでの取材を通じて、いわきの仕事や人、そしてまちの魅力について、たくさん触れてきました。その中で感じたことは、若者がチャレンジしやすいまちであることです。

いわきには、ビジネスの可能性がたくさん眠っていて、そこにチャレンジした成果が「まち」の魅力に直結します。これは都会では味わえない大きなやりがいだと思います。ふるさと「いわき」の魅力を多くの方々へ届けられる喜びと誇りを胸に、これからも自分たちらしく活動していきたいです。

私たち(株)LOCOの新たなチャレンジは、企業の魅力をさまざまな視点から見つけ出し、SNSを戦略的に活用した情報発信につなげていくことです。企業活動のどのようなポイントが世間に刺さるのかを的確に見つけてPRすることで、地域企業のブランディングにつなげていきたいです。

さらには、いわきの楽しみ方などを海外留学生や外国の方にも発信し、インバウンド効果を狙った取り組みも面白いと考えています。時代に合った発信の仕方についても日々チャレンジするとともに、いわきで働く若者、そして一度は地元を離れたとしても、また帰ってきてもらえるような魅力を一杯発信していきたいです。



いわきって 実は、若い人がチャレンジしやすいまち



(株)LOCO 取締役/公認会計士
自身も公認会計事務所を創業

栗林 利紗さん

広報いわき 2024.8 4

私は、取締役として彼女と一緒に(株)LOCOを経営しています。

初めて彼女と出会ったのは、当時非常勤講師として初めて福島高専の3年生を持つようになった時です。彼女は、学生時代からSNSの見せ方などに敏感でインプット・アウトプット能力が非常に優れている印象でした。

現在は、仕事の良きパートナーであり、実の妹のようにかわいい存在です。共通している点としては、自分たちが納得したもの以外は絶対世の中に出さないということ。

今後も都心と地方における情報格差の穴埋めになる存在として色々なことにチャレンジしてほしいですし、「いわきに住んでいる一人一人を主役」にする、そんな存在になってほしいと願っています。

(株)LOCO 代表取締役 佐藤 桃香さん

本年3月、福島高専ビジネスコミュニケーション学専攻科を卒業し、同年4月に(株)LOCOを設立。Z世代が集結し、SNSを活用していわきの魅力を発信するとともに、市内企業のPR動画作成や市内企業と求職者とのマッチング支援を行っており、日々若者目線からの情報発信に奮闘しています。



Locoメンバーが実際に取材して体験したことを皆さんにお届けしています。
Loco iwakiと一緒にいわきを盛り上げましょう！



対談テーマ

Uターン いわきでの挑戦

好間工業団地連合会の会員企業の若手社員5名と内田市長による意見交換会「市長と語ろう、いわきライフ」を実施しました。
いわき市出身で進学や就職で一度はふるさとを離れたあと、Uターンでいわきに就職した方たちの思いをお届けします。

【豊村さん】



都会と比べ、まだまだ賃金が劣る点や交通のインフラ整備が不十分な点などありますが、何より心が満たされ、充実した日々を送っています。子育てしやすいまちに向け、柔軟な補助制度がもっと増えると若い方の定住・移住が進み、いわきがさらに活気づくのではと感じています。

【鷲さん】

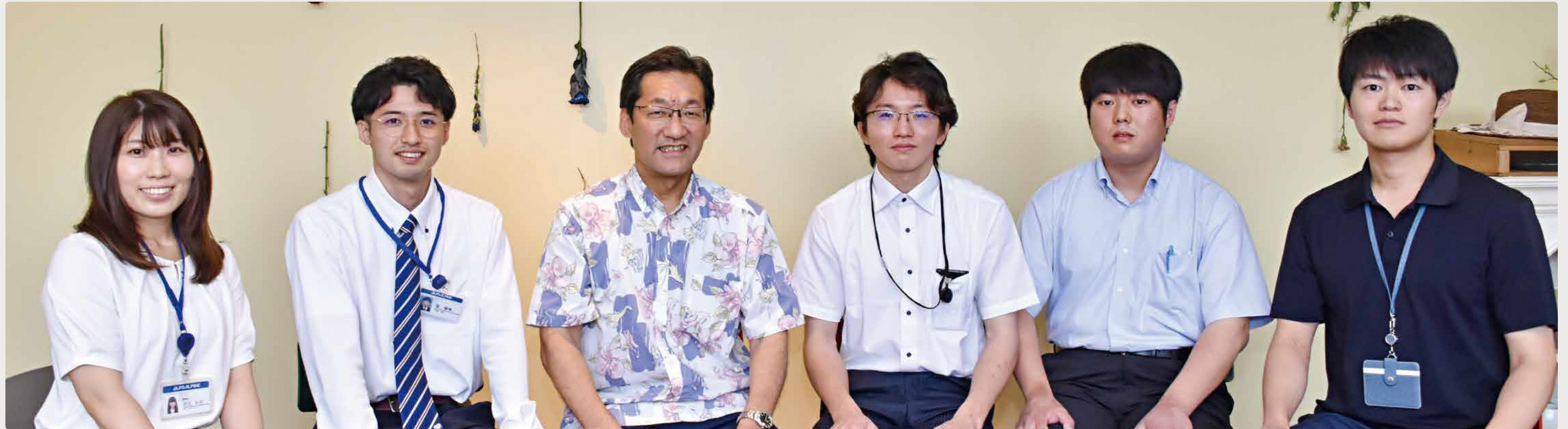


いわきの海が大好きで浜風が元気の源。ふるさとへ戻ってきてようやく呼吸ができた、そんな感覚です。電車の終電時間がもう少し長いと、繁華街への滞在時間も長くなり、経済効果も大きくなると思います。若者が住み続けたいと思う施策が一つでも多く進むことを期待します。

【若松さん】



ダイバーシティ（多様性）の考えが確実に定着しつつあり、育児休暇なども取得しやすくなり、男性との垣根を取ろうとする意識はあらゆる面から感じています。都会にはない、いわきならではの居心地の良さを若者に届けられるよう、もっとPRできると良いですね。



アルプスアルパイン(株)
若松 未来さん

大学を卒業後、市外の企業に就職。その後、現在の企業へ就職のため、いわきへUターン。現在9年目。

アルプスアルパイン(株)
星 優希さん

大学を卒業後、現在の企業へ就職のため、いわきへUターン。現在1年目。

いわき市長
内田 広之

大学を卒業後、国家公務員として約25年勤務し、いわきへUターン。2021年9月より市長に就任。現在1期目。

東新工業(株)
鷲 亮太郎さん

大学を卒業後、現在の企業へ就職のため、いわきへUターン。現在3年目。

(株)江東微生物研究所
小野 純輝さん

専門学校を卒業後、現在の企業へ就職のため、いわきへUターン。現在4年目。

(株)タンガロイ
豊村 慶太郎さん

大学を卒業後、東京の企業に就職。全国で勤務後、いわきへUターン。現在1年目。

【星さん】



子どもの頃、弊社の夏祭りイベントに参加していたことが今思うととても運命的に感じています。

いわきは、どの分野でも多くの課題がある分、やりがいも大いに感じています。いわきで働くプライドをしっかりと持ち、より良いまちづくりにも貢献していきたいです。

【小野さん】



少子高齢化が進む中、若者はもちろんですが、高齢者の住みやすいまちづくりは、今後ますます大事になってくると思われます。

若者から高齢者まで、幅広い世代から住んでいて良かったと言われるようなまちになるよう、自分にもできることをやっていきたいです。

【内田市長】

まずは、いわきに戻ってきてくれて「ありがとう」という気持ちでいっぱいです。

若者がどのような視点で仕事を選ぶのか、住みやすさ、支援策のあり方、行政に求めることなど、とても重要なヒントをたくさん頂きました。本市で幸せに暮らしていただけるよう、時代に合ったイノベーションやビジネスチャンスをつくり出せるような支援策を、今後も全力で行っていきたく考えています。

仕事以外のプライベートにおいて、どんな生活を過ごせるかという点も重要なポイントと捉えています。前例にとられない新しい切り口から、いわきの魅力を最大限発揮できる支援策とより分かりやすい発信を通し、多くのチャレンジをしつかり支えていきます。

「ただいま」

ひとりひとりが個性を花開かせる。希望と自信に満ちあふれ、自らの人生を切りひらいていく。そして、ふるさといわきを大切に思う。

「人づくり日本一」を掲げる、いわき市が目指す「ひと」の姿です。

いわき市には、こうした「ひと」の姿を実現するため、夢と希望を感じさせてくれる「仕事」、意欲と能力を発揮できて、チャレンジしたくなる「働く場」が、数多く存在しています。

もちろん、自らが、そういった「働く場」を創ることもできます。

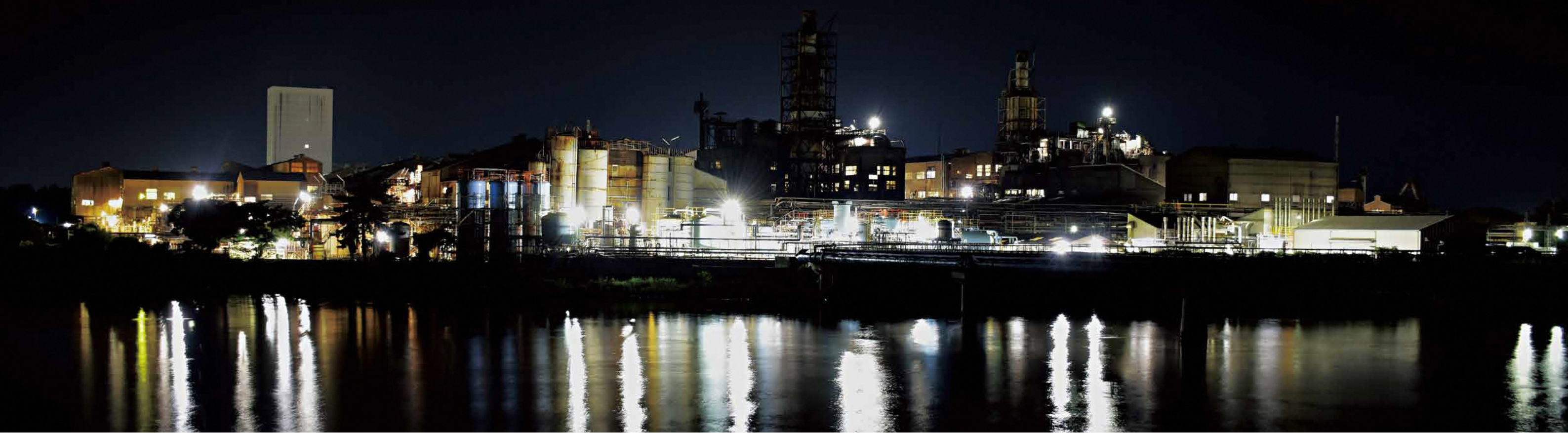
年齢は関係ありません。

いわきを離れて生活している方、いわきに縁のない方でも「挑戦と努力をしようとする方に広く扉を開いているいわき市」で、将来性とやりがいを手に見ませんか。

あなたの「やりがい」がふるさとの活性化です。

あなたの「幸せ」がふるさとの豊かさです。

あなたの「ただいま」がふるさとの勇気になります。



未来に向けた取り組みや魅力的な企業

就職応援サイト



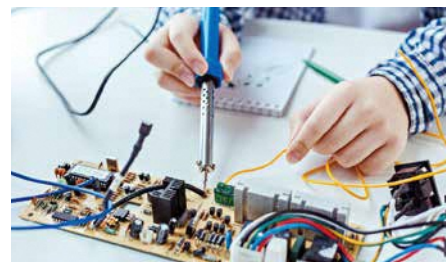
市内での就職に関する情報を中心に魅力ある職場紹介や最新の求人情報などを発信しています。いわき市で働く魅力や市内事業所を動画にて紹介していますのでぜひ、ご覧ください。



福島新産業ショーケース



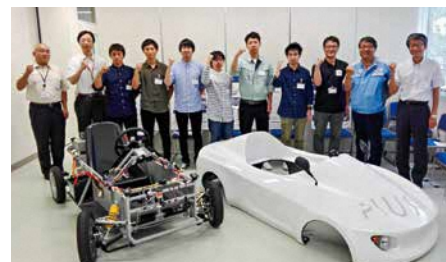
浜通りをメインに県内に拠点を持つ企業・団体の先進的な技術の開発や製品・サービス、未来に向けた取り組みなどについて「福島の新たな産業の見本市」として紹介しています。



バッテリーバレー推進機構



本市を中心とした周辺地域が蓄電池関連産業の重要拠点として認知・集積されるとともに、次世代エネルギーの推進とカーボンニュートラルの実現に向けた人材育成などに取り組んでいます。



農業挑戦者への経営支援



新たに農業を始めたい方や就農後の経営改善などの相談窓口として「いわき地域就農支援センター」を設置し、支援しています。お気軽にご相談ください。



創業支援など



創業を志す方などに対し、相談窓口の設置やセミナーの実施、インキュベートルームやネットワーク構築の場を提供し、地域のチャレンジャーを応援しています。



移住支援金など



「短期滞在・お試し居住」「住まい」「就職・起業」「東京圏からの移住」など、いわきに住みたいを応援するため、さまざまな補助・支援事業を実施しています。

